

## 分科会 ④-1 地域の活性化とは？ 自分ができること

### 1. コーディネーター名

福崎真知子

### 2. 参加者数 8名（山形県6名、宮城県1名、福島県1名）

### 3. テーマ

地域の活性化とは？ 自分ができること

### 4. ディスカッション内容

最初に己紹介と、日ごろ取り組まれている事についてのお話を伺いました。

分科会のメンバーは、お菓子屋さん、化粧品販売、議員の秘書、障がい者スポーツ指導員、こども園調理師、大学生、お片付けのプロと、実に現役としてバリバリ仕事、学業に取り組んでいらっしゃる皆様でした。

最初に私から参考として、現在取り組んでいる具体例をご紹介してから、皆様の状況を具体的にお話しいただきました。私が先駆けてお話ししたのは、支倉常長が米沢で生まれ7歳まで育ったと言われていることから、米沢の歴史的資源として、常長の実績を顕彰し次世代につないでいく事業に取り組んでいることをご紹介しました。また偶然にグループメンバーに米沢のお菓子屋さんがいいましたが、「支倉常長が初めてチョコレートを食した日本人」であることから、そのお菓子屋さんと共に、「支倉ブラウニー」を開発し地域の活性化につないでいることの事例を紹介しました。

お片付けのプロの方からはモノを捨てることによる整理ではなく、捨てない整理法のセミナーを実施している話をお聞き、捨てることの罪悪感の無い整理方法を教える事を通じてコミュニケーションをとっている話をお聞きし、とても参考になりました。

また、こども園の調理師の方からは栄養、素材など考慮しレシピに工夫を凝らしながら手作りのお料理を提供している事の素晴らしい活動をしている話をお聞きしました。

大学生は、126の国と地域で活動する世界最大級の学生組織であり、海外インターンシップ事業を運営する学生団体のNPO法人に所属しながらの活動を、学業と両立させながら取り組んでいる、とても元気で明るい深刺とした学生さんでした。

皆様、現在の取り組みについて悩みを掲げながらも、明るくお互いに情報交換し、連携しながら元気に活動を推進していこうとしている、現在バリバリ仕事、活動に取り組んでいるメンバーによる、お互いに今後の活動に多いにヒントと元気を頂けた有意義なディスカッションタイムでした。